

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

11月号



農業普及現場

普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.225 2025.11

紹介内容 (10/1~10/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援 ······ 1
 - 大河原農改：宮城県総合畜産共進会（乳用牛の部）で団体優勝しました
 - 仙台農改：令和7年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
- ② 新たな担い手の確保・育成 ······ 1
 - 石巻農改：高校生と石巻・東松島の農業の課題を考えました
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を開催しました
 - 亘理農改：農業大学校の「先進農業体験学習」が無事終了しました
 - 仙台農改：農業大学校の令和7年度先進農業体験学習の終了式が行われました
 - 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました
 - 石巻農改：宮城県農業大学校生が33日間の先進農家体験学習を無事終える！
 - 石巻農改：世代を超えて、石巻地域の農業の未来を語り合いました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化 ······ 4
 - 大河原農改：水稻直播情報交換会を行いました
 - 大河原農改：稲WCSの生育調査、わたしが見えなくなりそうです
- ④ 園芸産地の育成・強化支援 ······ 4
 - 美里農改：高温対策で収量アップ！リノベーションハウスのトマト長期夏越し栽培
 - 亘理農改：名取岩沼地域で促成きゅうり栽培講習会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援 ······ 5
 - 大河原農改：大豆種子生産ほ場の審査を行いました
- ⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 ······ 6
 - 亘理農改：「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈り体験」が開催されました
 - 仙台農改：にんにく栽培指導会が開催されました
 - 美里農改：若手女性農業者のための「みんなでマルシェ参加講座2」を開催しました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- 粟 原農改：令和7年度第1回粟原地域普及活動検討会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○宮城県総合畜産共進会(乳用牛の部)で団体優勝しました

令和7年 10月 9日

大河原農業改良普及センター



令和7年9月24日に宮城県総合畜産共進会（乳用牛の部）が開催されました。この大会は県内の乳用牛を集めて、乳用牛の「美人コンテスト」（健康で長持ちするための体型を比較展示）をする大会です。県内から38頭の美しい乳用牛たちが集まり、月・年齢別に8部門でその美しさを競いました。

大河原管内から出品された乳用牛は全8部門中、3部門で優勝し、団体優勝を勝ち取りました。その中で（有）半澤牧場から出品された乳用牛が、経産牛部門で最も栄誉ある名誉賞を獲得しました。一般的に乳用牛は生涯に3～4産しますが、名誉賞を獲得したこの牛は、11歳9産で年齢を感じさせない素晴らしい体型と審査員から驚かれるほどでした。

また、令和7年10月25日から北海道で行われる全国大会「全日本ホルスタイン共進会」の選考会も行われ、県代表となる4頭のうち2頭が大河原管内から選出されました。本大会ですばらしい成績を収めると同時に、全国大会での活躍を期待したいです。

○令和7年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました

令和7年 10月 22日

仙台農業改良普及センター



先進的農業者や市町村及びJA等の担当者を検討委員として、より効率的かつ効果的な普及活動を開いていくための意見や評価をいただく、第1回仙台地域農業普及活動検討会を、令和7年8月28日(木)に開催しました。

はじめに、令和7年度の普及指導計画のプロジェクト課題No.4「水稻乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化」の活動について、支援対象者の大和町内にある水稻乾田直播栽培ほ場において、現地検討を実施しました。

乾田直播栽培の現地検討では、乾田直播栽培の具体的な作業内容や技術を導入した所感について、プロジェクト課題リーダーと対象農業者から説明を行い、その後検討委員との間で活発な質疑応答がなされました。

その後、JA新みやぎあさひな統括営農センター（大和町）に移動し、検討を行いました。はじめに令和7年度普及指導計画の概要について説明した後、4つのプロジェクト課題「次代を担う生産者の育成による梨産地活性化」、「ねぎの次世代担い手育成による産地の強化」、「ほ場整備を契機とした営農体制の整備」、「水稻乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化」について、プロジェクト課題リーダーから活動状況について説明しました。

検討委員からは、「今後の農業について、産地と行政が連携して進めていく内容の発表であったと思う」、「省力化、高齢化は引き続き課題になってくると思うので、引き続きこのような意見交換・情報提供の場を設けてほしい」等の発言がありました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決に向け、いただいた意見や評価を参考に、関係機関と連携しながら普及活動に取り組んでいきます。

②新たな担い手の確保・育成

○高校生と石巻・東松島の農業の課題を考えました

令和7年 10月 14日

石巻農業改良普及センター



令和7年9月24日に、宮城県石巻高等学校の地域課題探究活動への協力事業の一環で、1年生に対して「石巻圏域の農業と課題について」と題して授業を行いました。

最初は188人の生徒を対象に、石巻圏域の農業の現状と課題、普及センターの取組について説明を行いました。その後、教室を移動して約40人の生徒と質疑応答を行いました。参加した高校生からは「農業を始めるためにはどんな資格が必要か、また、準備が必要か」、「スマート農業ではどのような場面でどのような機械が使われるか」などの積極的な質問が出ました。今後は、現場訪問や成果報告会も予定されています。

普及センターは、今後も農業の担い手確保に向けて、農業の魅力・情報提供を実施していきます。

○みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を開催しました 令和7年10月16日 大河原農業改良普及センター



令和7年9月26日に管内で先進農業体験学習を行っている農業大学校生3名を対象に、みやぎ農業未来塾「先進農業経営体相互研修会」を行いました。午前はそれぞれの受け入れ農家を回り、学生から自分の受け入れ先で学んでいることを説明してもらいました。どの学生も、研修で学んだことを丁寧に説明していました。

午後は白石市で食品の一次加工、二次加工及び6次化商品の開発をしている「みのりファクトリー」を視察しました。「みのりファクトリー」では、加工施設の見学やH A C C Pの取り組みについて学び、今後の学習に役立てることができるようメモを取りながら講師の話に真剣に耳を傾けていました。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携した地域農業の担い手の確保・育成に向けた取組を進めています。

○農業大学校の「先進農業体験学習」が無事終了しました 令和7年10月17日 亘理農業改良普及センター



9月8日から始まった農業大学校の「先進農業体験学習」が、10月10日の終了式をもって、33日間の

日程を終了しました。

亘理管内の先進的な農業者の元で学んだ 13 名の学生たちは、開始式とは見違えるほど、自信に満ちた頬もしい表情で終了式に臨みました。

式の中では、学生一人ひとりから、「授業だけではわからなかった農業の大変さややりがいを理解し、前向きに取り組むことができた」、「栽培管理だけでなく、加工食品の販売会に同行することで、お客様との対面販売を学ぶことができた」、「受入農業者の皆さんに丁寧に教えていただいた」等、充実した研修を物語る言葉が聞かれ、彼らを大きく成長させたことが伝わってきました。

普及センターでは、この貴重な経験を糧に学生たちが未来の農業界で大きく羽ばたくことを期待するとともに、今後も地域農業の未来を担う新規就農者や青年農業者を支援してまいります。

○農業大学校の令和7年度先進農業体験学習の終了式が行われました

令和 7 年 10 月 17 日

仙台農業改良普及センター



9月8日（月）から10月10日（金）までの33日間に亘る農業大学校の先進農業体験学習が無事に終了しました。

研修最終日は普及センターで修了式を行い、学生1人1人から受け入れ農家へお礼の言葉が伝えられました。実家が農家の学生からは、「今まで経験してこなかった園芸品目も体験できた」という体験学習ならではの感想があったほか、卒業後の独立自営就農を目標とする学生からは「地域との関わり方を知れた。就農に活かしたい」という将来に繋がる感想も聞かれました。

また、希望する数名の学生は、今後もオプション研修を受け入れていただけることとなりました。今後も学生の皆さんには、今回の体験学習で得た知識や人との繋がりを大切にし、将来の目標に向かって引き続き頑張っていただきたいと思います。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました

令和 7 年 10 月 17 日

登米農業改良普及センター



9月8日から33日間の日程で行われていた宮城県農業大学校1年生の先進農業体験学習が10月10日に無事終了しました。

登米市内では、今年、登米市出身の4人の学生が、

市内で稲作、肉用牛、果樹等の先進的な農業経営を実践する4戸の農家で研修を行いました。

最終日に行われた終了式では、学生たちから学校の授業では学べない多くのことを体験でき、とても楽しく勉強になったという感想や、優しく教えていただいた受入農家の方々に対する感謝の言葉が述べられました。また、受入農家からは、一生懸命に取り組む学生の姿勢によく頑張ってくれた、この経験を今後の学習に活かして欲しいと激励の言葉をいただきました。

研修を終えた学生たちの表情からは、自らの目標を成し遂げ大きく成長した様子が伺えました。

○宮城県農業大学校生が33日間の先進農家体験学習を無事終える！

令和 7 年 10 月 21 日

石巻農業改良普及センター



令和7年10月10日、石巻合同庁舎において、令和7年度宮城県農業大学校先進農家体験学習終了式が開催されました。

今年度は3名の農業大学校生が、東松島市の3つの農業法人で、33日間の農業体験を行いました。

終了式では、学生から研修先へのお礼の言葉として「将来、農業後継者となるので、学んだことを糧にしたい」、「自分から行動することの大切さがわかりました。この体験を自分で活かしていきたい」、「非農家で初めてのことばかりでした。農業に触れ合って農業の難しさを知りました」などの感想の他「貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました」、「たくさんの人と会えて絆が広がりました。また来てねと言わされました」と心からの感謝の言葉がありました。

受け入れた法人の代表者からは「地域の担い手として頑張ってほしい」、「自分から積極的に行動でき

るよう、社会人になっても頑張ってほしい、「どんな仕事も楽しむところがあった。この経験を糧にして頑張ってほしい」との激励の言葉をいただきました。

○世代を超えて、石巻地域の農業の未来を語り合いました

令和7年10月21日

石巻農業改良普及センター



石巻地域の農業を長年支えてきた石巻農業士会の会員、管内において先進農業体験学習中の宮城県農業大学校生及び、石巻地区4Hクラブ員が、世代を超えて交流する会が今年も開催されました。

交流会には、農業士10名、農大生3名、4Hクラブ員4名のほか、当日行われた現地研修の講師である（株）イグナルファームの阿部代表取締役や、体験学習受入先の（株）めぐいーとの川村勝雄代表取締役が参加しました。

終始、和気あいあいとした温かい雰囲気のなか、ベテラン農業士の持つ豊富な知識や経験、そして若手農業者が抱く新しいアイデアや挑戦についての情報・意見交換が活発に行われました。

農大生にとって、地域の農業を引っ張る大先輩や、年齢の近い先輩農業者と直接話ができたことは、今後の進路を選ぶ上で大きなヒントとなり、貴重な繋がりを得る有意義な時間になりました。

石巻普及センターでは、この交流が地域の農業の活性化につながるよう、今後も石巻農業士会や石巻地区4Hクラブ連絡協議会の活動を全力でサポートしていきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化

○水稻直播情報交換会を行いました

令和7年10月10日

大河原農業改良普及センター



角田市高田萱場地区の担い手である農事組合法人さくらファームでは、水稻作業の省力化を目指し、来年度より面工事完了後の大区画ほ場で水稻直播栽培に取り組むこととしています。

そこで、隣接する尾袋川東地区で6年前より水稻直播種栽培に取り組む株式会社飛躍S h o wの遠藤代表を講師に招き、水稻直播情報交換会を開催しました。

遠藤代表より、栽培管理のポイントについて実践を基にしたアドバイスが行われ、さくらファーム構成員からは、播種床の作り方や直播栽培に必要な機械などについて熱心に質問が出されました。

普及センターでは、今後も先進的技術に取り組む経営体を支援してまいります。

○稲WCSの生育調査、わたしが見えなくなりそうです

令和7年10月14日

大河原農業改良普及センター



稻

発酵粗飼料用稻（稻ホールクロップサイレージ：稻W C S）をご存じでしょうか？稻W C Sは稻全体を細断してラップフィルムで包み乳酸発酵させて、牛に食べさせる餌です。

当普及センターでは、この牛の餌となる稻の中で、県内で初めて栽培される品種「つきことか」の生育調査を実施しています。「つきことか」は極端穂茎葉型と言われる品種で、お米となる穀が極端に少なく、茎・葉の割合がとても大きくなります。牛は穀・茎・葉を全部食べますが、穀は消化が悪いので、穀が少ない方が良い餌となります。

皆さん一般に目にする食用稻は、高さが80cm程度ですが、9月30日の生育調査で「つきことか」は140cmを超える高さにまでなりました。収穫までどこまで草丈が伸びるのかとても楽しみです。

④園芸産地の育成・強化支援

○高温対策で収量アップ！リノベーションハウスのトマト長期夏越し栽培

令和7年10月10日

美里農業改良普及センター



美里町の株式会社デ・リーフデ美里（以下、D L 美里）は、町内のハウスをリノベーションし、県内最大級となる約 2 h a の施設で、令和 6 年 3 月から養液栽培の大玉トマトを周年生産しています。

近年、夏季高温に伴い、九州や関東のトマト主産地（熊本県、栃木県等）では、夏季の栽培が非常に困難になっていますが、D L 美里でも、昨年はトマトの高温障害が発生し、夏場の収量が伸び悩みました。

そこで、今作では、耐暑性品種の導入や遮光・遮熱塗布剤の活用のほか、ハウス内の環境特性をデータ化して振り返り、定期的に関係機関との情報共有を行ふことで、高温対策を実施しました。

その結果、今作の夏越し栽培では、最もハウス内の温度が上がる 7 ～ 9 月にも、鈴なりの大玉トマトが実り、収量を落とすことなく暑い夏を越すことができました。

一般的な施設トマト栽培の累計反収は 15 ～ 20 t /10 a とされますが、D L 美里の今作の累計反収は、効果的な高温対策を行ったこともあり、約 40 t /10 a が見込まれています。

○名取岩沼地域で促成きゅうり栽培講習会が開催されました

令和 7 年 10 月 21 日
亘理農業改良普及センター

名取・岩沼地域では、令和 7 年産抑制きゅうりの出荷が盛期を迎えており、来春に生産する促成きゅうりの栽培講習会が、JA 名取岩沼ハウス胡瓜部会の主催で開催され、生産者や JA 仙台の営農指導員、資材メーカーなどが参加しました。

講習会では、種苗メーカーから県内産抑制きゅうりの生産状況や促成栽培の栽培方法について指導がなされ、「促成栽培は樹づくりが大切」であり、土づくりのための堆肥施用や健苗の定植、生産量を向上させる CO₂ 施用なども必要だとの指導がありました。

当所からは「タバココナジラミが媒介する各種ウイルス病害とその防除対策」を情報提供しました。近年、全国で被害が拡大しているウイルス病を媒介するタバココナジラミを「園芸施設に入れない」、薬剤散布で「増やさない」対策等を指導しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、地域のきゅうり生産を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆種子生産ほ場の審査を行いました

令和 7 年 10 月 30 日
大河原農業改良普及センター





管内では、2法人が大豆の種子生産を行っています。秋の深まりとともに、大豆の生育もぐっと進み、成熟期を迎えたことから、みやぎ仙南農協担当者と一緒に、2か所のほ場で「あやこがね」のほ場審査を行いました。

収穫した大豆を種子にするためには、2回のほ場審査、生産物審査を受ける必要があります。

近年、アレチウリや帰化アサガオ類などの雑草の侵入が問題になってきていますが、こまめに雑草防除やほ場管理に取り組んできたことから、順調に生育し、いずれも審査の結果は合格となりました。

良質な大豆種子生産が行われることを期待し、法人には、収穫期まで、引き続き丁寧な管理の徹底をお願いしました。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈り体験」が開催されました

令和7年10月9日

亘理農業改良普及センター



令和7年10月4日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「なとり・ぐるっと親子講座 稲刈り体験」が開催され、16家族43人の親子が参加しました。亘理農業改良普及センターも運営支援で参加しました。

当日は、秋晴れの清々しい穏やかな稲刈り日和となり、作業が始まると汗ばむほどでした。黄金色に実

った稲を子供たちは1株1株丁寧に手刈りしました。刈り取った稲は、保護者が稻わらで束ね、コンバインで脱穀しました。

また、コンバインによる機械収穫の見学では、あっという間に稲刈りが終わるのを見た子供たちから「手刈りよりずっと早いね。かっこいいね。」などの感想が聞かれました。

「稲刈りしてからスーパーに並ぶまで、どのくらい日数が掛かるの」との質問に対し、「直売であれば、2~3日後にはお店に並びます」との回答に、参加者から「え~！そんなに早いの」と驚きの声が上がりました。

当普及センターでは、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動とともに、管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

○にんにく栽培指導会が開催されました

令和7年10月22日
仙台農業改良普及センター



令和7年9月29日に、大和町役場の会議室を会場に、町内のにんにくを生産する法人を対象とした「にんにく栽培指導会」を開催しました。（株）渡辺採種場の山薦氏を講師に迎え、「にんにく生産に係る栽培技術について」と題し、より高品質なにんにくを生産するために重要な要素や施肥の考え方等について学びました。

講義終了後に、講師と生産者による個別相談会を実施しました。生産者からは、雑草対策方法や他地域におけるにんにく生産状況等の質問がなされ、活発な意見交換をしていました。

普及センターでは、地域の高収益作物生産に係る技術の向上をはじめ、中山間地域の営農を支援してまいります。

○若手女性農業者のための「みんなでマルシェ参加講座2」を開催しました

令和7年10月24日
美里農業改良普及センター



大崎・美里・栗原の3つの農業改良普及センターでは、令和6年度から、若手女性農業者等の地域での活躍や交流を支援する事業を合同で実施しています。

令和7年度は、「みんなで販売会・マルシェ出店にチャレンジ！」をテーマに、地域で開催されるイベントに参加して農産物等の販売を行うこととしています。令和7年8月7日（木）に開催した第1回の講座に引き続き、2回目の講座を令和7年9月10日（水）に美里町の中埠コムニティセンターを会場に開催し、3普及センター管内から8人の女性農業者が参加しました。

最初に講師の（一社）みやぎ大崎観光公社小林営業戦略部長から商品の魅せ方やPR方法などについての講義があり、その後、出店予定のイベント「おおさき産業フェア2025」での販売ブースづくりのワークショップを行いました。

宮城県大崎保健所食品衛生班からは「イベント出店時の食品衛生について」と題し、イベントで農産物や加工品を販売する際に必要な手続きや食品衛生に関する説明を受けました。

参加した女性農業者らは何をどう販売するかなど様々なアイディアが出て盛り上がる一方で、食中毒防止や食品衛生法の関係からできない事もあり、イベントで販売することの難しさを感じていたようでした。

今後も、普及センターでは女性農業者のこうしたイベントへの参加を通し、企画立案などの資質の向上やネットワークづくりに繋げていきたいと思います。

○令和7年度第1回栗原地域普及活動検討会を開催しました

令和7年10月24日
栗原農業改良普及センター



令和7年9月2日（火）に栗原市若柳総合支所及び現地ほ場において、令和7年度第1回栗原地域普及活動検討会を開催しました。

本検討会は、今年度上半期の普及活動の状況について外部評価委員にご意見をいただくことを目的としています。

委員には、先進的な農業者、女性農業者、生活者、学識経験者、市役所、農業関係団体等有識者7名を委嘱しています。

当日は、最初にプロジェクト課題で取り組む若柳地区の大豆ほ場を見学しました。担当者より大豆栽培において土づくりや雑草防除が課題であることから、農業者自らが改善できるよう「大豆栽培チェックリスト」を作成し、農業者に活用してもらうことで作業改善につながったことを説明し、委員の方からは高い関心がありました。

その後、栗原市若柳総合支所の会議室に移動し、普及センターが取り組んでいる令和7年度普及計画全体を説明し、特に3つのプロジェクト活動については中間的な成果を紹介し、意見交換を行いました。

委員からは、「大豆の雑草防除について、市内のほかの農業者にも取組の横展開を期待したい」や「加工用たまねぎについては、法人による取組は、播種の遅れにより残念な結果となったが、直播栽培は作業の省力化に効果があると認識しており、安定的な収入につながるよう支援をお願いしたい」など、前向きな意見をいただきました。

委員からの意見を活かして、下半期の普及活動を充実させてまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

① 要請・緊急対策、その他

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243

大河原町字南 129-1

TEL:0224-53-3519

<亘 理>

〒989-2301

亘理町逢隈中泉字本木9

TEL:0223-34-1141

<仙 台>

〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8320

<大 崎>

〒989-6117

大崎市古川旭四丁目1-1

TEL:0229-91-0727

<美 里>

〒987-0005

美里町北浦字笹館5

TEL:0229-32-3115

<栗 原>

〒987-2251

栗原市築館藤木5-1

TEL:0228-22-9404

<登 米>

〒987-0511

登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

TEL:0220-22-8603

<石 卷>

〒986-0850

石巻市あゆみ野5-7

TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181

気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6

TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.225

発行日:2025年11月27日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbsfs@pref.miyagi.lg.jp